01\_画面出力

◆課題提出先

①提出サーバにアクセス　…　\\sv23

ユーザ名：学籍番号

パスワード：学籍番号に紐づく6桁の数字

※入れなかった人はユーザの先頭にmaetel\を付けてみてください（maetel\学籍番号）

②提出フォルダ

[提出20XX]-[IT]-[村上]-[プログラミング基礎演習Ⅰ]へと階層を移動し、

その中の[属するクラス]の中にある[自分の名前]のフォルダ内に.javaファイルを提出する。

具体的に、最終的なフルパスは以下の通りになります。

（例）LPK1\_IT1Cクラスに属する田中太郎さんの場合

\\sv23\提出20XX\IT\村上\プログラミング基礎演習Ⅰ\LPK1\_IT1Cクラス\田中太郎

※毎回この階層に手動でアクセスするのは手間が掛かるので、ショートカットを作成しましょう。

◆課題作成上の注意点

①ソースコードの先頭に下記のような作成者情報を記述すること。

記述していなければ課題点は0点になります。

//\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

// 課題名 : Kad01\_1

// クラス : IE1A

// 作成者 : 田中 太郎

// 作成日 : 2020/04/14

//\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

②ファイル名とclass名は同じ、かつ先頭は大文字にすること。

ファイル名：　Kad01\_1.java

public class Kad01\_1 {

～～～

同じ、かつ先頭は大文字

}

※ファイル名とclass名が違うと実行できません。

③ ソースコード作成上の注意点

・作成者情報をコメントで記述する。

・タブキーでインデントを階層ごとに揃える。

・課題の仕様通りに動作する。

・意味合いが変わる所で改行を入れる。

・どこで何をしているか理解できるよう極力コメントを付ける。

※他人のソースコードをコピーして自分の課題として提出した事が発覚した場合は

その事象に関係した全ての学生の課題点を0点とします。

**課題1**

//\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

// 課題名 : Kad01\_1

// クラス : IE1A

// 作成者 : 田中 太郎

// 作成日 : 2020/04/14

//\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

public class Kad01\_1{

public static void main(String[] args){

System.out.println("Hello World!");

}

}

＜実行結果＞

Hello World!

下記のサンプルプログラムを打ち込んで実行し、結果を確認しなさい。

ファイル名：Kad01\_1.java

◆サンプルプログラム

※注意

繰り返しになりますが、これから作成する全ての課題は作成者情報を記述すること。

記述していなければ誰が作成したか分からない為、課題点が付かず0点になります。

慣れない間は忘れやすいのでファイルを作成した直後に記述すること。

**課題2**

以下の条件を満たしつつ、実行結果のように表示するプログラムを作成しなさい。

条件① System.out.println();ではなく、System.out.print();を使用すること。

条件② エスケープシーケンスを使用して記述すること。

ファイル名：Kad01\_2.java

＜実行結果＞

"はじめてのプログラミング"

E\C\C

"コンピュータ 専門学校"

水平タブ

◆エスケープシーケンスとは

Javaの文法として通常記述できない文字を出力する場合に使用する。

例えば、文字列はダブルクォーテーションで囲んで記述する為、通常はダブルクォーテーションを

出力することはできない。

（記述例）

System.out.print("""); //この場合、2つ目の"で文字列が終了してしまい出力できない

System.out.print("\""); //このようにエスケープシーケンスを使用すれば"を出力できる

ダブルクォーテーションの他にも、以下のようなエスケープシーケンスが用意されている。

